

Future of Kyoto Award

「日傘をシェアしよう」～シェアソル～

川合健太・〇〇〇〇

皆さん日傘は普段から使いますか？

- ① 特に女性の方は紫外線対策で毎日使うという人。
- ② 持ち運ぶと荷物になるから使わないという人。
- ③ 別に無くても困らないものだから使わないという人。
- ④ 夏の京都でいざ外出してみたら使いたくなるという人。



その悩み、新たなシェアサービスで解決します。

シェアソル

～共有 (share)+日傘 (parasol) ～



事業目的

快適な京都観光の提供

熱中症対策としての日傘の普及

ビニール傘の年間廃棄量の削減

サービス概要②

取組内容

設置場所の提供者との連携

- 着物レンタルのお店
- 特急バスが止まるバス停付近
- お土産屋・観光地の最寄り駅

日傘のデザイン・設計

- 晴雨兼用の日傘を採用
- 京都らしい和柄の日傘
- 日本の漫画をモチーフにしたもの

その他

- 市場調査
- シェアシステムのアプリの開発
- ウェブサイトの設計



サービス概要③



実施方法

設置場所の提供者との連携

- サービスのメリットを説明する
- 提供者との契約交渉
- 必要な設備やインフラを整備する

日傘のデザイン・設計

- 一般人や外国人観光客を問わず利用しやすい点を考慮する
- 着物と相性の良いデザインにする

その他

- 大学にてアンケート調査を実施
- アプリ等については直感で操作しやすいものを設計する

サービスの強みについて

我々のサービスが持つ3つの強み。

01.利便性の向上



ユーザーは必要な時に手軽に日傘を利用でき、持ち運びの負担を軽減することができる。

02.環境保護



使い捨ての傘の使用を減らすことで、環境保護に貢献することができる。

03.熱中症の リスク軽減



熱中症になるリスクを減らし、夏の京都を少しでも快適に観光できる。

サービスの強み 01.利便性の向上

日傘のシェアサービスを導入することで、以下のことが実現できる。

BEFORE

- 日傘を使うシーンが限定されている。
- 折り畳みであってもかばんに収まりきらなかったり、重かったりして荷物になる。
- 混雑する電車やバスでは他の乗客の迷惑になる恐れもある。



AFTER

- 目的地の天候に応じて、本当に必要な時に日傘を使用できる。
- 持ち運びの不便を解消できる。
- 駅やバス停付近にスポットがあることで混雑する車内でも迷惑になることがない。

日傘のシェアサービスを通じて、環境保全にも貢献する。

傘の年間消費量



ビニール傘廃棄量は
約8000万本

- 日本では年間約1.2～1.3億本の傘が消費されおり、そのうち6割にあたる8000万本のビニール傘が廃棄されている。
- もろくて使い捨てられるビニール傘を減少させたい。
- 晴雨兼用、かつ、丈夫な日傘を採用することで環境保全に取り組む。

サービスの強み 03.熱中症のリスクを軽減

環境省のウェブサイトより

夏の熱ストレスに気をつけて!

日差しが強い屋外で、健康的に活動するためには、汗をかいて身体を冷やす必要があります。



汗は血液から作られるため、汗をたくさんかけば血液が少なくなり、体調をくずす場合があります。

日傘を使って強い日差しから体を守ると、汗の量が約**17%**減る※ことが分かりました。



※実験条件:人工気象室(気温30℃、湿度50%、日射量1.2kW/m²、風速0.5m/s)で15分間の歩行運動を2回実施(途中10分間休憩)。
男性6名により帽子のみをかぶった状態と、日射を99%以上カットする日傘を使った場合の比較結果。
ここでの汗の量は、歩行運動前後の体重減少量から求めた水分喪失量のことです。

日傘を使用することで汗の量が
およそ

17%減少

頭部の温度が
55℃→40℃

15℃減少

- 景観保護のために建物の高さが低い京都では日陰が少なく、強い日差しに注意が必要になる。
- ここ数年京都府の5月～9月までの熱中症患者は増加傾向にある



更に我々のサービスには以下の魅力があります。

1

和柄の日傘によって、着物とのマッチや、京都に来たという実感が湧き、観光客の気分を盛り上げることができる。

2

お土産屋さんにもスポットを設置することで、利用者がお土産屋さんに立ち寄り、売り上げにも貢献できる。

3

サービスを利用して歩く人が増加すれば、バスや地下鉄の混雑を少しでも解消することができる。

ご清聴ありがとうございました。